

# 令和3事業年度財務諸表

(一時金支払等勘定)

# 貸借対照表

(令和4年3月31日)

(一時金支払等勘定)

(単位：円)

科 目	金 額		
資産の部			
I 流動資産			
現金及び預金		8,558,676,643	
流動資産合計			8,558,676,643
II 固定資産			
1 有形固定資産			
工具器具備品	12,903,967		
減価償却累計額	△ 3,793,725	9,110,242	
有形固定資産合計		9,110,242	
2 無形固定資産			
ソフトウェア		1,829,765	
無形固定資産合計		1,829,765	
固定資産合計			10,940,007
資産合計			8,569,616,650
負債の部			
I 流動負債			
未払金		3,516,006	
預り金		206,855	
引当金			
賞与引当金		2,873,014	
その他		2,443,356	
流動負債合計			9,039,231
II 固定負債			
資産見返負債(注)			
資産見返補助金等		2,148,511	
長期預り補助金等(注)		8,512,411,659	
引当金			
退職給付引当金		39,669,109	
その他		6,348,140	
固定負債合計			8,560,577,419
負債合計			8,569,616,650
純資産の部			
I 利益剰余金			
当期末処分利益		0	
(うち当期総利益)		(0)	
利益剰余金合計			0
純資産合計			0
負債純資産合計			8,569,616,650

(注) これらは、独立行政法人固有の会計処理に伴う勘定科目です。

行政コスト計算書  
(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

(一時金支払等勘定)

(単位：円)

科 目	金 額	
I 損益計算書上の費用		
一時金支払等業務費	309,169,640	
一般管理費	12,164,689	
損益計算書上の費用合計		321,334,329
II その他行政コスト		0
III 行政コスト		321,334,329
		321,334,329

損益計算書  
(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

(一時金支払等勘定)

(単位：円)

科 目	金 額		
経常費用			
一時金支払等業務費			
人件費	19,873,331		
一時金支払金	275,469,758		
一時金支払等業務経費	7,325,749		
減価償却費	1,863,671		
賞与引当金繰入	2,163,654		
退職給付費用	2,473,477	309,169,640	
一般管理費			
人件費	8,458,515		
管理経費	3,315,083		
減価償却費	785,423		
賞与引当金繰入	709,360		
退職給付費用	△ 1,103,692	12,164,689	
経常費用合計			321,334,329
経常収益			
補助金等収益 (注)			
交付金収益	321,101,553	321,101,553	
資産見返補助金等戻入 (注)		222,128	
雑益		10,648	
経常収益合計			321,334,329
経常利益			0
当期純利益			0
当期総利益			0

(注) これらは、独立行政法人固有の会計処理に伴う勘定科目です。

純資産変動計算書  
(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

(一時金支払等勘定)

(単位：円)

	I 資本金		II 資本剰余金					III 利益剰余金 (又は繰越欠損金)				純資産合計	
	政府 出資金	資本金合計	資本剰余金	その他行政コスト累計額			資本剰余金合 計	前中期目標期 間繰越積立金	積立金	当期未処分利 益 (又は当期 未処理損失)	うち当期総利 益 (又は当期 総損失)		利益剰余金 (又は繰越欠 損金) 合計
				減資差益	減価償却相当 累計額 (-)	除売却差額相 当累計額 (-)							
当期首残高		0					0				-	0	0
当期変動額													
I 資本金の当期変動額													
不要財産に係る国庫納付等による減資													
II 資本剰余金の当期変動額													
減価償却													
固定資産の減損													
III 利益剰余金 (又は繰越欠損金) の当期変動額													
(1) 利益の処分又は損失の処理													
前中期目標期間からの繰越し													
利益処分による積立													
利益処分 (又は損失処理) による取り崩し													
国庫納付金の納付													
(2) その他													
当期純利益 (又は当期純損失)													
前中期目標期間繰越積立金取崩額													
IV 評価・換算差額等の当期変動額 (純額)													
当期変動額合計		0					0			0	0	0	0
当期末残高		0					0			0	0	0	0

キャッシュ・フロー計算書  
(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

(一時金支払等勘定)

(単位：円)

区 分	金 額
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	
一時金支払金による支出	△ 275,469,758
人件費支出	△ 33,599,525
その他の業務支出	△ 10,325,475
その他の業務収入	10,648
業務活動によるキャッシュ・フロー	△ 319,384,110
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△ 10,721
無形固定資産の取得による支出	△ 29,580
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 40,301
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
リース債務の償還による支出	△ 2,426,966
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,426,966
IV 資金減少額	△ 321,851,377
V 資金期首残高	8,880,528,020
VI 資金期末残高	<u>8,558,676,643</u>

利益の処分に関する書類  
(令和4年8月23日)

(一時金支払等勘定)

(単位：円)

科 目	金	額
I 当期未処分利益		0
当期総利益	0	
II 利益処分額		
積立金	<u>0</u>	<u>0</u>

## 注記

### 1. 重要な会計方針

当事業年度より、改訂後の独立行政法人会計基準及び独立行政法人会計基準注解（令和3年9月21日改訂）並びに独立行政法人会計基準及び独立行政法人会計基準注解に関するQ&A（令和4年3月改訂）（以下、「会計基準」という。）を適用して、財務諸表等を作成しております。

なお、会計基準のうち、時価の算定に係る改訂内容は令和4事業年度から、収益認識に係る改訂内容は令和5事業年度から、それぞれ適用します。

#### （1）減価償却の会計処理方法

##### ① 有形固定資産

定額法を採用しております。なお、主な資産の耐用年数は以下のとおりとなっております。

工具器具備品 5 ～ 6年

##### ② 無形固定資産

定額法を採用しております。なお、法人内利用のソフトウェアについては、法人内における利用可能期間（5年）に基づいております。

#### （2）退職給付引当金の計上基準

当該事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当該事業年度末までの期間に帰属させる方法については期間定額基準を採用し、過去勤務債務及び数理計算上の差異は発生年度において一括費用処理しております。

#### 【表示方法の変更】

会計基準の改訂に伴い、勘定間を職員が異動したことにより、退職給付債務及び年金資産を取り崩し又は計上する場合においては、「退職給付引当金繰入」及び「退職給付引当金戻入益」の勘定科目を用いてそれぞれに加算する方法から、「退職給付費用」の勘定科目を用いて加減算する方法に、変更しております。

#### （3）賞与引当金の計上基準

当該事業年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

#### （4）リース取引の処理方法

リース料総額が3,000,000円以上のファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理としております。

リース料総額が3,000,000円未満のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理としております。

#### （5）消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式としております。

### 2. 重要な債務負担行為

該当事項はありません。

### 3. 重要な後発事象

該当事項はありません。



#### 4. 行政コスト計算書関係

(1) 独立行政法人の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト

独立行政法人の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコストについては、次のとおりとなっております。

行政コスト	321,334,329円
自己収入等 △	10,648円
法人税等及び国庫納付額	－円
機会費用	36,587円
<hr/>	
独立行政法人の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト	321,360,268円

(2) 機会費用の計算方法

国からの出向職員に生じる機会費用の計算方法

当該職員が国に復帰後退職する際の退職金のうち、独立行政法人での勤務期間に対応する額は、給与規定等に基づき計算しております。

#### 5. キャッシュ・フロー計算書関係

資金の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

現金及び預金	8,558,676,643円
資金の期末残高	8,558,676,643円

#### 6. その他独立行政法人の状況を適切に開示するために必要な会計情報

(1) 独立行政法人改革等に関する基本的な方針について

独立行政法人改革等に関する基本的な方針（平成25年12月24日閣議決定）において、独立行政法人制度を導入した本来の趣旨に則り、法人の政策実施機能の最大化と官の肥大化防止・スリム化の両立を図ることを目的として、法人共通の制度、運用の見直しについて、講ずべき措置が取りまとめられたほか、当機構について講ずべき措置として次の内容が定められ、第186回及び第189回国会にて法案が審議され成立しております。

【福祉医療機構】

- 中期目標管理型の法人とする。（第186回国会 閣第78号）
- 財務の健全性及び適正な業務運営の確保のため、金融業務に係る内部ガバナンスの高度化を図るとともに、福祉貸付事業及び医療貸付事業については、金融庁検査を導入する。（第189回国会 閣第23号）
- 承継年金住宅融資等債権管理回収業務について、資金の効率的運用の観点から、現在年1回とされている回収金の国庫納付を定期的に行えるよう所要の措置を講じる。（第189回国会 閣第23号）

(2) 金融商品の時価関係

① 金融商品の状況に関する事項

ア 金融商品に対する取組方針

当該勘定は、独立行政法人福祉医療機構法（平成14年法律第166号）附則第5条の3に基づき、一時金支払等業務を実施しております。なお、当該業務を実施するため、交付金を受け入れております。

#### イ 金融商品の内容及びそのリスク

当該勘定が保有する金融資産は、主として長期預り交付金に係る預金等であり、これらの運用にあたっては、運用先金融機関の財務状況や格付状況等について定期的に確認するとともに、金融機関毎に格付と資本額に応じた運用限度額を設定し、特定の金融機関に過度に運用資産が集中しないようリスクの軽減を図るための措置を講じております。

#### ② 金融商品の時価等に関する事項

期末日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりとなっております。

(単位：百万円)

科 目	貸借対照表計上額	時 価	差 額
(1) 現金及び預金	8,558	8,558	—
(2) 預り金	(0)	(0)	(—)

注 負債に計上されているものは、( ) で示しております。

#### ○ 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

##### (i) 現金及び預金

これらは短期間で決済しており、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから当該帳簿価額を時価としております。

##### (ii) 預り金

預り金は短期間で決済しており、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから当該帳簿価額を時価としております。

#### (3) 退職給付引当金関係

退職給付引当金に関する事項は、次のとおりとなっております。

##### ① 採用している退職給付制度の概要

当機構は、確定給付型の制度として企業年金基金制度及び退職一時金制度を設けており、確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を設けております。当機構の企業年金基金制度は複数事業主制度となっておりますが、年金資産の額を退職給付債務の比率に応じて合理的に算定できるため、関連する注記は、以下の確定給付制度の注記に含めて記載しております。企業年金基金制度（積立型制度となっております。）では、給与と勤務期間に基づいた年金を支給しております。退職一時金制度（非積立型制度となっております。）では、退職給付として給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しております。

なお、当機構が加入する公庫厚生年金基金においては、平成25年4月1日付けで厚生労働大臣から厚生年金の将来期間の代行部分に係る支給義務の免除の認可を、また、平成26年10月1日付けで過去分返上の認可を受け、平成29年9月22日付けで国に返還額（最低責任準備金）の納付を完了しております。

② 確定給付制度

ア 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表（ウに掲げられたものを除く。）

（単位：円）

区 分	金 額
期首における退職給付債務	33,273,152
勤務費用	673,386
利息費用	86,155
従業員からの拠出額	—
数理計算上の差異の発生額	△ 4,554,878
退職給付の支払額	△ 1,163,746
過去勤務費用の発生額	—
その他	—
期末における退職給付債務	<u>28,314,069</u>

イ 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

（単位：円）

区 分	金 額
年金資産の期首残高	26,355,451
期待運用収益	527,109
数理計算上の差異の発生額	△ 4,070,751
事業主からの拠出額	1,129,405
従業員からの拠出額	—
退職給付の支払額	△ 1,163,746
その他	—
年金資産の期末残高	<u>22,777,468</u>

ウ 簡便法を適用した制度の退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

（単位：円）

区 分	金 額
期首における退職給付引当金	33,913,948
退職給付費用	1,621,480
退職給付の支払額	△ 1,402,920
期末における退職給付引当金	<u>34,132,508</u>

エ 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

(単位：円)

区 分	金 額
積立型制度の退職給付債務	28,314,069
年金資産	<u>△ 22,777,468</u>
積立型制度の未積立退職給付債務	5,536,601
非積立型制度の退職給付債務	<u>34,132,508</u>
未積立退職給付債務	39,669,109
未認識数理計算上の差異	—
未認識過去勤務費用	<u>—</u>
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	<u>39,669,109</u>
退職給付引当金	39,669,109
前払年金費用	<u>—</u>
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	<u>39,669,109</u>

オ 退職給付に関する損益

(単位：円)

区 分	金 額
勤務費用	673,386
利息費用	86,155
期待運用収益	<u>△ 527,109</u>
数理計算上の差異の費用処理額	<u>△ 484,127</u>
過去勤務費用の費用処理額	—
簡便法で計算した退職給付費用	<u>1,621,480</u>
確定給付制度に係る退職給付費用	<u>1,369,785</u>

カ 年金資産合計の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりとなっております。

株	式	25%				
債	券	64%				
そ	の	他	0%			
一	般	勘	定	11%		
現	金	及	び	預	金	0%
合		計		100%		

キ 長期期待運用収益率の設定方法に関する記載

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

ク 数理計算上の計算基礎に関する事項

当該事業年度末における主要な数理計算上の計算基礎については、次のとおりとなっております。

区 分	令和4年3月31日現在
割引率	0.3%
長期期待運用収益率	2.0%

③ 確定拠出制度

当機構の確定拠出制度への要拠出額は140,783円となっております。

附 属 明 細 書

1 固定資産の取得及び処分並びに減価償却費（「第87 特定の資産に係る費用相当額の会計処理」による減価償却相当額も含む。）の明細

(単位：円)

資産の種類	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	減価償却累計額		差引当期末残高	摘要
						当期償却額		
有形固定資産 (減価償却費)								
工具器具備品	10,221,562	2,682,405	—	12,903,967	3,793,725	2,562,245	9,110,242	
無形固定資産 (減価償却費)								
ソフトウェア	286,925	1,708,613	—	1,995,538	165,773	86,849	1,829,765	

2 引当金の明細

(単位：円)

区分	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高	摘要
			目的使用	その他		
賞与引当金	2,579,755	2,873,014	2,579,755	—	2,873,014	

3 退職給付引当金の明細

(単位：円)

区分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	摘要
退職給付債務合計額	67,187,100	△ 2,173,857	2,566,666	62,446,577	
退職一時金に係る債務	33,913,948	1,621,480	1,402,920	34,132,508	
確定給付企業年金等に係る債務	33,273,152	△ 3,795,337	1,163,746	28,314,069	
未認識過去勤務費用及び未認識数理計算上の差異	—	—	—	—	
年金資産	26,355,451	△ 2,414,237	1,163,746	22,777,468	
退職給付引当金	40,831,649	240,380	1,402,920	39,669,109	

4 運営費交付金以外の国等からの財源措置の明細

長期預り補助金等の明細

(単位：円)

区分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	摘要
旧優生保護法一時金支給等業務費交付金(支給金分)	8,077,439,091	—	275,469,758	7,801,969,333	一時金支払金:275,469,758円
旧優生保護法一時金支給等業務費交付金(事務費分)	757,793,455	—	47,351,129	710,442,326	経常費用:45,631,795円 資産見返補助金等:1,719,334円
計	8,835,232,546	—	322,820,887	8,512,411,659	

5 役員及び職員の給与の明細

(単位：千円、千円未満切捨て、人)

区分	報酬又は給与		退職手当	
	支給額	支給人員	支給額	支給人員
役員	(54) 943	(0.01) 0.06	50	0.01
職員	25,390	3.70	1,360	0.11
合計	(54) 26,334	(0.01) 3.76	1,410	0.12

(注)1 役員に対する給与等の支給基準の概要

役員の給与及び退職手当については、独立行政法人福祉医療機構役員給与規程等に基づき、適正額を支給しております。

2 職員に対する給与等の支給基準の概要

職員の給与及び退職手当については、独立行政法人福祉医療機構職員給与規程等に基づき、各職員の職能に応じて適正額を支給しております。

3 職員等の給与の「支給人員」数は、年間平均支給人員数を記載しております。

4 ()は非常勤の役員及び職員に対するもので外数です。